

ホルムズ海峡封鎖に伴う中東情勢の現況⑤

日本人船員全員がペルシャ湾外へ退避（24 人→0 人）

下船可能な港、食料、水、燃料などの補給状況などに関する確認

4 月 24 日に協議会（安全）を開催し、ペルシャ湾内への滞留を余儀なくされている船舶や乗船している乗組員の状況に関する情報共有を含め協議を行った。

▽本日時点では、ドバイ、アル・ジュバイル、ドーハ、ジュベル・アリ、ラスタヌラの 5 つの港で乗下船が可能となっている。

▽5 つの港では、食料や水等の補給も行っている。

▽湾内に滞留している 56 隻それぞれの食料、水、燃料等の補給状況や、乗組員の乗下船の状況は一覧に取りまとめ、毎週運航会社経由で本船まで情報発信している。

▽個々の乗組員の常備薬等については現地での補給や輸出入が困難であり、個別に要請があった際に出来得る対応を検討し取り組んでいる。

これらを受け、組合からは、「一部本人希望による下船が行われているということであるが、声を上げずとも潜在的に下船を望んでいる乗組員がいることは想像に難くない。乗組員の心情を含め、各船の状況を正しく把握しつつ、下船を希望した際には安全経路を常時確保していただきたい」と改めて要請した。

「海員だより」